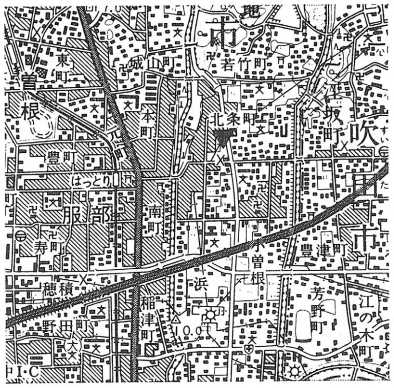
大阪・小曽根遺跡

1　所在地　大阪府豊中市北条町一丁目
2　調査期間　一九八九年（平1）一月～六月
3　発掘機関　豊中市教育委員会
4　調査担当者　森　幸三
5　遺跡の種類　集落跡
6　遺跡の年代　弥生時代～室町時代
7　遺跡及び木簡出土遺構の概要

小曽根遺跡は豊中市の南部の天竺川・高川に挟まれた標高約四m前後の低地平野部に位置する。弥生時代から室町時代にかけての複合遺跡であり、また文治五年（一一八九）の「春日社領垂水西御牧榎坂郷田畠取帳」に当時の様子が記されている。



（大阪西北部）

今回の調査は共同住宅建設に伴い実施された小曽根遺跡第一五次調査で、弥生時代中期の竪穴式住居・壺

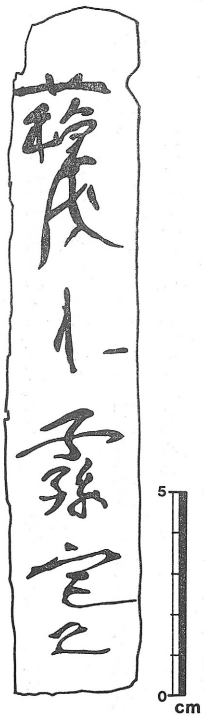
棺墓、平安時代末から鎌倉時代前半の掘立柱建物・木棺墓・井戸、室町時代の溝等が多量の土器・石器・木器などの遺物を伴い検出された。

木簡は井戸より出土した。井戸は直径一・五m、深さ一mを測り、井筒として直径五〇cm、高さ三五cmの二段積の曲物が底に据えられていた。掘形の形態から、井戸枠・井桁等が存在していた可能性も考えられる。木簡は曲物内埋土から一点、井戸を廃棄したと考えられる上部の埋土から二点出土した。木簡の他に「十」の墨書のある瓦器碗や竈片が出土しており、これらから一三世紀初頭頃には廃絶した井戸と考えられる。

8　木簡の釈文・内容

(1)　「〈蘇民将来子孫宅也」　170×32×3　032

出土した木簡は三点とも同文であり、蘇民将来の名を記した呪符木簡である。おそらく同一人の筆になるものと思われる。隣接地で行われた小曽根遺跡第七次調査でも、「蘇民将来□□□□」の木簡が出土しており、この集落において「蘇民将来」に関する信仰が根強いものであったと考えられる。



9　関係文献

木簡学会『木簡研究』四号（一九八二年）

（森　幸三）